

足立区ギャラクシティ運営評価委員会議事録

会 議 名	足立区ギャラクシティ運営評価委員会		
事 務 局	地域文化課 課長 中島 宣幸 係長 小栗 洋平 係員 鈴江 和俊 係員 村田 貴紀 係員 中村 友理	住区推進課 課長 江川 博文 係長 矢野 恵子 係員 醍醐 和可子	
開催年月日	令和6年10月15日（火）		
開催時間	午前10時 ～ 午前11時30分		
開催場所	ギャラクシティ レクリエーションホール3		
出席者	渡辺 千歳 委員 (東京未来大学 こども心理学部教授)	山縣 朋彦 委員 (文教大学教育学部 学校教育課程 教授)	伊志嶺 絵里子 委員 (東京藝術大学音楽学部 非常勤講師)
	酒井 雅男 委員 (銀座ヒラソル法律事務 所 弁護士)	工藤 隆朗 委員 (足立区立小学校PTA 連合会元副会長)	四宮 淳司 委員 (足立区少年団体連合協 議会会長)
欠席者	なし		
会議次第	1 開会 2 委員長、副委員長選出 3 事務局説明 4 指定管理者ヒアリング 5 意見交換 6 閉会		
資料	資料1 業務評価シート 資料2 業務評価チェックシート 資料3 加点提案書一覧 資料4 条例等一式 資料5 令和5年度協定書 資料6 令和5年度各種報告書 資料7 令和5年度広報誌一式 資料8 令和5年度アンケート結果		
その他			

【開会】

<小栗係長>

皆さんおはようございます。定刻となりましたので、これからギャラクシティ評価委員会を開催させていただきます。本日はお忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。本日進行させていただきます、広域施設係長の小栗と申します。どうぞよろしく願い致します。本委員会は、足立区子ども未来創造館条例第24条、及び第25条に基づきまして、区長の付属機関として開催されるものでございます。また、足立区西新井文化ホール条例と足立区立子育てサロン条例、こちらにつきましても、ギャラクシティの評価委員会のほうで評価について諮ることができるとなっておりますので、併せて本日評価をいただければと思います。なお、本委員会は足立区ギャラクシティ運営評価委員会公開規定に基づきまして、公開会議となっております。ただ今のところ、事前に申し込みはございませんが、急遽傍聴人が入場することもございますので、ご了承いただければと思います。よろしく願い致します。

【課長あいさつ】

<小栗係長>

開会に先立ちまして、本日、地域文化課長の中島課長と住区推進課長の江川課長が出席しております。代表いたしまして、中島地域文化課長より挨拶申し上げます。

<中島地域文化課長>

改めまして、皆さんおはようございます。地域文化課長の中島です。本日も22日と2日間に渡って、評価していただくということでよろしく願いいたします。時間も限られているので手短かにさせていただきます。今回色々な事業展開しているということも、事業ご覧になって分かると思うんですけども、そういった色々な事業やっておりますが、フラット

な目で見ていただいて評価をしていただければと思います。

過去の事例などもありますけれども、令和5年度中にどういったことを行って、どういった加点があって、そういったことを反映していただければと思います。併せて、子育てサロンにつきましても、ギャラクシティで運営しておりますので、そちらの視点も欠けることのないようお願いできればと思います。簡単ではございますが、よろしく願いいたします。

【委員紹介】

<小栗係長>

続きまして、評価委員の皆様のご紹介をさせていただきます。

東京未来大学子ども心理学部教授の渡辺委員でございます。

<渡辺委員>

よろしく願いします。

<小栗係長>

文教大学教育学部学校教育課程教授の山縣委員でございます。

<山縣委員>

よろしく願いします。

<小栗係長>

東京藝術大学音楽学部非常勤講師の伊志嶺委員でございます。

<伊志嶺委員>

よろしく願いします。

<小栗係長>

銀座ヒラソル法律事務所弁護士の酒井委員でございます。

<酒井委員>

よろしくお願いします。

<小栗係長>

足立区立小学校PTA連合会元副会長の工藤委員でございます。

<工藤委員>

よろしくお願いします。

<小栗係長>

足立区少年団体連合協議会会長の四宮委員でございます。

<四宮委員>

よろしくお願いします。

【委員長・副委員長選出】

<小栗係長>

続いて、足立区子ども未来創造館条例施行規則18条に基づきまして、会議を開催するにあたり、委員長を選出いたします。昨年度に引き続きまして、渡辺委員にお願いしたいと考えておりますが、皆様いかがでしょうか。

<各委員>

異議なし(拍手)

<小栗係長>

ありがとうございます。続きまして、足立区ギャラクシティ運営評価委員会運営要綱第3条に基づきまして、委員長より副委員長をご指名いただきます。

<渡辺委員>

山縣委員にお願いします。

<小栗係長>

山縣委員ということですが、よろしいでしょうか。

<各委員>

異議なし

<小栗係長>

よろしくお願いいたします。

それでは、開会に先立ちまして、委員長からご挨拶を賜りたいと思います。渡辺委員長よろしくお願いいたします。

<渡辺委員>

時間も押しておりますので、すぐに始めたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

<小栗係長>

渡辺委員長ありがとうございました。それでは、ここからの議事進行は、渡辺委員長にお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

<渡辺委員長>

それでは、足立区ギャラクシティ令和5年度運営にかかる第1回運営評価委員会を開催します。開催にあたり事務局から説明をお願いいたします。

<小栗係長>

はい。それでは私より説明をさせていただきます。お手元にあります次第に沿って、事前にお渡ししている資料、本日お渡ししました資料をもとに進行させていただきます。本日所見シートもお配りしておりますので、そちらもご参照ください。審査方法の確認をいたします。審査はチェックシートに沿って行います。チェックシートに記載のある指定管理者評価、区評価、そしてヒアリング内容を参考に審議を経て、得点を決定いたします。なお、昨年度に引き続き、評価項目のうち管理項目のチェック項目につきましては、資料の整備状況等評価

委員の皆様の裁量が少ない項目でございますので、区のモニタリング結果を後ほど説明させていただきます。また、最後に所見シートをもとに評価シートに記載するコメントを皆様に決定していただきますが、ぜひ、良い点、悪い点も具体的にご記入いただければと思います。また、評価シートの中で、子ども未来創造館・子育てサロンが一緒の項目になっておりますが、コメント欄については、子ども未来創造館に関する事、子育てサロンに関する事、それぞれコメントいただければと思いますので、よろしく願いいたします。本日 1 日目は、西新井文化ホールの項目のヒアリングまでを予定しております。時間としましては、11 時半までを目途に開催したいと思っておりますので、よろしく願いいたします。2 日目に残り項目のヒアリング、評価点の決定、コメント欄の決定を行う予定でございます。以上、簡単ではございますが、事務局からの説明を終わります。

<渡辺委員長>

はい、ありがとうございます。それでは、管理状況のモニタリング結果の説明をお願いします。

【事務局説明】

<小栗係長>

はい。それでは事務局より管理状況のモニタリング結果をご報告させていただきます。チェックシートに基づきまして、説明をさせていただきます。お手元にご用意ください。1 番、管理状況でございます。A 適切な管理の履行ですが、こちらにつきましては、(1)施設開館期間や時間について、仕様書どおり行われていることに関しては、資料等で適切に行われていることを事務局で確認しております。また、(2)の明朗・丁寧・慎重・公平・親切な利用者対応を行っていることについて、こちらは令和 4 年度にクレームがあり、×がついたところですが、令和 5 年度はクレームが無かったということ

で、区のモニタリングも問題なしという評価でつけさせていただいております。「(4)受付環境が良好に保たれ、受付および入出金事務等が適正に行われている」のところで、×がついたところがございます。こちらにつきましては、所見シートでも委員の皆様からご意見いただいておりますが、どのような内容だったのか簡単にご説明いたします。こちらシステムに関連するミスが 3 件ありました。1 つ目の内容は、チケット予約システムという西新井文化ホールの公演のチケットを予約できるシステムがあるんですが、通常西新井文化ホールの席図を入力して、そこから座席を選べるようなかたちにしておくところ、席図のところ、まるちたいけんドーム(プラネタリウム)の席図を誤って入れ込んでしまったために、うまく席図が表示されなくて、一時予約ができなくなってしまったというような事故でございます。

こちらの原因としましては、こちらは、もともと区のシステムなのですが、ギャラクシティに渡されている操作マニュアルの中に、こういった操作がある旨の内容が記載されているのですが、その操作は、あくまでも区のシステム管理者である業者の方で行わなければいけない操作だったのですが、それをギャラクシティが、やってはいけない操作だという認識が無く、今回こういった事故が起きてしまったというものでございます。元々そこは操作してはいけないということでギャラクシティに通知はされていたようなのですが、その通知の周知が徹底されていなかったということが原因となっております。本件につきましては、マニュアルの見直しのほか、指定管理者が操作してはいけない所をもともと触れられないようにシステムを変えて対応しております。2 つ目のシステム事故ですが、こちらは施設予約システムというシステムですが、平野運動場と江北公園のテニスコートの予約をとっている方が、江北公園のテニスコートの予約を取り消したいと来たのですが、平野運動場のほうの予約も取り消してしまったというような事故です。こちらは、すぐ

に平野運動場の予約を取り直し、大きな問題は生じなかったのですが、こちらにつきましても、こういった作業を行うときは、改めて2人以上の職員で目を通して確認しましょうということで、見直しがなされています。最後の3つ目になりますが、こちらは、「足立シティオーケストラ第70回定期演奏会」という公演のチケットのインターネット販売をしたところ、販売初日に、まだ席が空いているにも関わらず、売り切れ表示がされてしまうという事象が起きたものです。こちらの原因ですが、1人の顧客が購入できる枚数を2枚と設定すべきところを、販売枚数のところを2枚にしてしまったと、こちらも簡易的なミスで起きてしまった内容です。こちらにつきましても、今後の対策として、チェックリストを改変し、確認を厳重に行っていくということで、報告を受けております。以上システムに関する事故につきましては、3件ご説明しました内容となっております。続いて、チェックリストの2ページ目「2 職員の勤務状況・体制が適切である」こちらにつきましても、従業員名簿や、ローテーション表等を事務局で確認しまして、適切に行われていることを確認しました。続いて3ページ目「3 人材育成の取り組み」こちらにつきましても、積極的に研修が行われております。特にインクルーシブ研修というもので、どなたでも利用していただけるように配慮ができる職員の意識づけができるような研修が行われていたり、ボランティアスタッフと関わり合いを持ってもらうために、モチベーションアップの取り組みというところで足立区の元気応援ポイント事業に参加して、ポイントをあげてモチベーションを継続していくですとか、そういった意欲も感じましたので、区としましては、○としております。続いて、4ページ目の「B 安全性の確保」でございます。こちらにつきましても、施設を運営していく中で、不具合等発見した場合は、適宜報告を受けており、また、適切な対応、迅速な対応をしていただいておりますので、こちらについても区としましては、○としております。そして「2 施設・設備の経年劣

化に対応している」という項目ですが、こちら所見シートにもご意見いただきましたけども、ギャラクシティは30年目を迎えて、だいぶ老朽化が進んでおりますけども、定期点検結果等、随時報告していただいたり、早急に対応した方がいいところについても、迅速に見積りをとったり、対応いただいておりますので、モニタリング結果は、○でございます。また「3 利用者が快適に利用できるよう、施設の管理が適切に行われている」という項目ですが、退室時の消灯の徹底、水道の閉め忘れ防止の貼り紙掲示等を行っているということもございまして、施設の管理は適切に行われていると、また、清掃につきましても、アンケートでも良い結果が出ておりましたので、○としております。続いて6ページ目「4 危機管理が適切に行われているか」という項目ですが、自然災害、特に台風ですとか、そういった時に、ギャラクシティは元々雨漏りがけっこうありまして、そういった台風が来た時の予防ということで、雨どいの掃除や、雨漏りがしそうな箇所には事前に人が立ち入らないような柵を作ったり、そういった対応もしていただいております。さらに、防火の関係では、定期的な防災訓練等行っておりますので、危機管理の意識は保たれているということで、モニタリング結果も○としております。所見シートの中で、危機管理について、傷病者一覧の6月5日と12月9日の事項について確認ということで、ご意見をいただいておりますので、こちらをご説明させていただきます。5 各種報告書の144ページに、6月5日の傷病者一覧・手当一覧がございます。6月5日、40代女性が遊具内の金属部分に左足を打ち付けて左足中指の打撲、こちらの事故につきましては、スペースあすれちっく内の遊具なんですけども、ネットを張るために金属が丸く、基礎となる部分に、輪っか状に階層ごとについており、そこから網を張っているんですが、その金属部分に左足を打ち付けて、打撲をしてしまったという内容です。こちら事務局で湿布等貼り付けて、歩いて帰れたということです。続いて、

12月9日の内容は、146ページ目にあります。

12月9日、80代女性の怪我の内容ですが、西新井文化ホールのエレベーター横に3段くらいの階段があるのですが、そこを下りようとした方が、つまずいて転倒し、3段下に落ちてしまったという内容です。こちらは、右肩の骨折ということで、痛みを訴えられていたので、救急車を呼びますかというお声がけもしましたが、一緒に来ていた方の介助で、タクシーで病院へ行かれたというような内容です。傷病者一覧については、以上でございます。

続きまして、チェックシート7ページ目の「法令等の遵守」です。こちらの個人情報保護への取り組みですが、昨年に引き続き意欲的に研修を開催しているということで、実績等確認いたしましたので、モニタリング結果は○とさせていただきます。個人情報事故への対応につきましても、令和4年度はこちらは事故があったのですが、令和5年度は事故が無かったため○としております。こちら令和4年度の事故につきましては、8ページ目でございます「前年度減点事項への対応」をご覧ください。令和4年度、通常メールで何か送る時に宛先をBCCに入れて送るのですが、誤ってメインのアドレスところに全ての宛先を入れて送ってしまったというところなんです。送られた方には、全員の方のメールアドレスが見られる状態になってしまったという内容でございます。こちらについては、マニュアルにダブルチェックを追加して、確認をしたというところで、今年は事故が起きなかったということです。最後に9ページ目の「D 適切な財務・財産管理」です。こちらについては、収支がプラスでしたので、また適切な財務管理も行われていましたので、モニタリング結果は○としております。所見シートの中でご意見いただいておりますが、光熱水費の予算額で、支出額が抑えられた要因として、予算額がもともと高く設定されていたということでしょうか、というご意見いただいておりますが、こちらは事務局から考えられる意見となっ

てしまいますが、おそらく昨年は光熱水費が上がるといような見込みがなされていたという状況で予算額が高くとられていたのだと思います。実際のところ、そんなに高騰がなかったというところで、支出が抑えられたと、資料からは読み取れました。また、事業関係費につきましても、講師の謝礼等があまりかからなかったということが資料から確認できるのですが、こういったところが改善して、予算に対して執行が低くなったのかにつきましては、後ほど指定管理者が参りますのでご意見として伺っていただければ正確な回答ができるかと思えますので、よろしく願いいたします。最後に、ギャラクカフェ事業関係費が6倍の執行額になっていることの確認ということで、こちらのギャラクカフェですが、もともと指定管理者が運営するものではなくて、行政財産の使用許可という形で、指定管理者とはまた別にギャラクカフェの運営が行われていたところを、指定管理者にお願いすることになり、現在指定管理者に運営していただいているところでございます。4月の当初は、4月から7月までの運営の予定でお願いをしておりました。8月からの運営事業者が新たに決まる見込みが無くなりましたので、8月から3月まで新たにお願いしますということで、委託料を追加で支払いまして、もともとの予算額から執行額が6倍くらい上がってしまったという内容です。簡単ではございますが、管理状況のチェック項目について以上でございます。追認や修正など実際の評価につきましても、評価点決定の際に確認させていただければと思います。この後、ヒアリング時にも管理状況のチェック項目について指定管理者の方に聞いていただけますので、そちらでご質問いただければと思います。区のモニタリング結果につきましては以上となります。

【指定管理者ヒアリング】

<渡辺委員長>

ありがとうございます。続いては、指定管理者に入室していただきます。

それでは指定管理者のヒアリングを始めさせていただきます。まず指定管理者より令和5年度の事業総括を3分程度行っていただいた後、評価項目ごとに事業説明と質疑応答を行いたいと思います。

<村田館長>

ギャラクシティ館長村田と申します。よろしくお願ひいたします。本日はお忙しい中お越しいただきまして誠にありがとうございます。まずは令和5年度の運営状況を数字でお伝えします。資料は、「2.施設入場者数統計」の9ページをご覧ください。まず、体験施設は、各種遊具、講座含みますけども、体験施設、1,021,269名で対前年比120%。貸室の合計が、89,282名で対前年比116%。まるちたいけんドームの入場者数が、80,996名で対前年比110%。文化ホール総入場者数が、113,701人で対前年比120%。総来館者数は合計1,305,248名。前年が1,098,630名でしたので、対前年比119%、の約20万人増で終了しております。要因をいくつか挙げます。広報面では、全館ビジョンとして掲げております、出会い、体験、夢の実現、わくわくウォ！にちなんで、広報誌を「ウォ！」に改めまして、季節に合わせたイベントや講座の情報を拡充しました。キャッチーさを前面に押し出したタイトルに、思わず「ウォ！」と叫んでみたくなるようなインパクトのある写真を多数掲載し、来館意欲を掻き立てる仕立てにしております。アウトリーチに関しましては、「A-Festa」「しょうぶまつり」「舎人千本桜まつり」足立三大祭りと言わせていただきますけど、これに東京拘置所で開催されている矯正展に出展し、ギャラクシティの認知度を高め来館を促すために積極的にアウトリーチに出向きました。また足立区文化芸術推進計画に掲載の新規重点事業ストリートピアノの拡充のため、アウトリーチを、企画、実施いたしました。事業面では、小規模で開催してきました大型全館イベントジャパンフェスタあだち鉄道ミュージアムスペ

シャルの拡大化とワークショップの無料化。これは全ての子供たちに体験して欲しいという願いを込めております。あとは東京商工会議所足立支部50周年を記念して足立の企業による足立区の子供たちへのお仕事体験事業として3日間30社300名を集めて開催。初日で予約が埋まってしまったという盛況ぶりでした。運営管理面としては安全安心ということで昨今、増加しつつある災害時や緊急時の対応訓練を強化しました。聴覚障がい者の協力のもとスペースアスレチックでの避難訓練、不審者対応訓練や足立消防署や町会との合同防災訓練を実施。インクルーシブ共生社会への意識、これは障がい者、差別解消法の合理的配慮ですとかSDGsもあるんですが、やはり我々が目指すところの全ての子供たちに体験をということも含めインクルーシブ共生への意識と理解を深めるために、聴覚障がい者対応訓練、公立文化施設協議会主催の鑑賞サポート研修ですとか、文化庁派遣の支援によるインクルーシブ研修などを積極的に、参加します。2023年度に関しましては広報、事業、内部体制強化の連動的な取り組みで、特段大きなミスなく運営してまいりました。詳細は後ほど加点提案書を中心に説明させていただきます。総括に続きまして管理状況の加点提案書についてということで、加点提案書に基づいて説明させていただきます。色々、提案書を上げさせていただいたんですが、4項目に絞って説明させていただきます。まず1ページ、項目「適切な運営」ということでタイトルがスペースアスレチックの多子世帯利用のルール改善。目的としては多子世帯の方がスペースアスレチックを利用しやすい環境に整えるということです。目標としては、ピークを迎えますゴールデンウィーク前にルールを変更し、より多くの方が利用できる環境にするということで始めました。事業概要、取り組みはスペースアスレチックの従来のルールでは、未就学時の方は保護者1名につき、2名までを認めるものでありました。これは、ネット遊具の不安

定な場所で災害時に保護者が、両脇に抱えて 2 名までなら避難できるだろうということで保護者 1 名について、未就学児 2 名にしておりましたが、保護者 1 名、未就学時 3 名以上で来られる方が結構いらっしゃり、利用できないことを悲しむお声があったりとか、あとは 1 人親世帯が増えたこと、両親と共に来館できる方ばかりではないために、お客様のご要望に答えるべく検討し、対応いたしました。これをゴールデンウィーク前にということで、実施いたしました。未就学児 3 名以上のお子様と保護者 1 名でのご入場を希望する方の改善後のルールとしては、これも同世帯の方に限りまして、お子様にリストバンドの着用をお願いしております。それにより保護者 1 名につき未就学児のお子様 3 名以上のご利用が可能で、お子様 3 人目からは災害時の緊急避難で職員と一緒に避難する際、目立って分かりやすくするためにリストバンドを着用することをルール化させていただきました。さらに多子世帯の利用がある時は、特に災害時では、緊急避難の際に、スタッフが、必要になりますので、事務所に共有し、さらにそのマニュアルを変更しております。また、スペースアスレチックの避難時に、マニュアルに合わせた避難対応訓練も実施しておりました。成果としましては多子世帯という理由でお断りすることが、もう無くなり、多くの方に利用していただきました。そうは言ってもそんなに多くはないですが、土日祝日平均 2 家族程度で、今は増えております。あとは、先ほど言いましたルール変更のための災害時の緊急体制を現場のスタッフと見直したことで改めて災害時の対応を改善することができました。めくっていただくと、写真が載っております。3 ページ、職員の勤務状況体制ということで「ジョブローテーションによるアウトリーチの充実化」。館外でのイベントが増え、ギャラクシティを PR できる機会が増える中で、ギャラクシティの通常の営業をしつつ、多くのイベントに参加するため、イベントを担える職員を増やす、複数の業務に対応できるジョブローテーションを組むとい

う目的です。目標としてはギャラクシティの通常の営業をしつつ、イベントに参加して、アウトリーチの参加者数、それを PR し、ギャラクシティの来館者数を増やすということを考えております。取り組みとしては、足立区でのイベントも増え、特に先ほども申しました足立区の「舎人千本桜まつり」「しょうぶまつり」「A-Festa」といった大型イベントへの参加が可能となり、ギャラクシティをよりアピールできる機会が増えました。館外の大型イベントは、土日祝日に開催されることが多いですが、同時に、ギャラクシティでも当然イベントが多く、それを問題なく運営をしなければいけないということで、ずっと、ジョブローテーションを取り組んでおりました。今年は特に、イベントを担える職員の強化ということで通常は、色々分業でやっております、広報チームや総務チーム、西新井文化ホールチームなどの職員もアウトリーチを担当しております。通常はこども体験のチームが、主に行くんですけど、それ以外の担当を派遣したということになります。それによって、例えば広報の職員がアウトリーチに行って新しくアウトリーチ用のチラシを作りました。ギャラクシティの遊具や動画の魅力を伝える、チラシの配布もできましたし、当然ですけど文化ホールの職員は文化ホールの今後の公演の内容を、強くアピールするということなどそれぞれの強みを生かした改革をイベント先で発揮することができました。成果としては、ギャラクシティの通常運用もやりながら、アウトリーチも問題なく実施することができてきております。一つの部署に、負担がかかることなく、偏ることなくギャラクシティ一帯で、今後もやって参ります。色々経験も、持ち帰りまして新たな提案、宣伝にもつながっております。実数に関しましては 2022 年度が 1,549 名だったところ、2023 年度は 4,451 名と約 3 倍。ギャラクシティの来館者は先ほど言いました通り、109 万人でしたが、2023 年度は 130 万人で 120% 増。今後も広域施設としてアピールしていき、ジョブローテーションを継続して、外部のイベントに積極的に参加し

ていきたいと思えます。続きまして5番の「人材育成、共生社会への意識と理解」ということで、先ほどもありましたが、全ての方に利用していただくということで、あとは従業員の障がい者の方に対する理解と対応力の向上を目指すということもしております。実施時期に関しましてはもちろん年間ではあるんですが、主な研修としては聴覚障がい者対応研修が6月12日、手話通訳士を招いて聴覚障がいのある方の対応について学びました。聴覚障がいの理解、手話についての知識を学び、講師の助手として実際に、聴覚障がいのある方に参加していただき、スペースアスレチックの避難訓練にも参加していただき、適切なアドバイスをいただきました。あとは鑑賞サポート研修、我々、公益社団法人全国公立文化施設協議会に所属しておりますけれど、この研修に、私と副館長が実際に参加し、この時は視覚障がい、目の不自由な方を実際に誘導するという模擬体験を経験し、介助サポートについて、色々学ばせていただきました。あとは、文化庁での劇場音楽堂等への芸術文化活動支援員の派遣による、インクルーシブ研修を受けさせていただきました。障がいは人と社会の間の環境にあることや、実技等を学びました。2日間の研修ですけども、1日目は座学と視覚障がいのある方のご案内の訓練、2日目は具体的な事業対応を、一緒に我々も考えて、事業の計画立案を行ってという研修になりました。成果としては、接客に必要な、障がいのある方に対する理解、対応力が少しずつですが向上したと思えます。館内各所にコミュニケーション支援のボードを配置したり、遊具の避難訓練時、聴覚障がいのある方にも参加してもらうことで視覚からの情報を伝えるため非常時、特にプラカードが必要だと、具体的な対応法をシミュレーションをすることができました。研修等を経てまるちたいけんドームにて、視覚障がいのある方のご案内をしたりがんばるウォールで聴覚に障がいのある方のご案内をしたり、研修が接客の自信につながりスムーズな対応ができている

という風に思っております。これは今後続けていきたいと思っております。最後、9ページの危機管理。これも昨今増えている災害、緊急時対応の強化ということで、より実践に近い、対応力と安全性の向上を目指すことを目的に行っております。取り組みに関しましては、6月12日は先ほどと被りますが、聴覚障がい者の方との避難訓練の取り組みです。あとは3月2日の不審者対応研修、講師としては西新井警察の生活安全課防犯係、防犯活動アドバイザー。この方は実際に2008年の秋葉原の通り魔事件の時に、実際に駆けつけた警察官らしいんですけども、この方をお招きし、刃物を持った人物との事件対応にあたった体験談、護身術、あとはさすまたの使い方など実践的な内容で教えていただきました。さらに合同防災訓練。これも毎年行っておりますけれども、ギャラクシティ、東京都住宅供給公社、自治会や足立消防署に来ていただき、合同防災訓練を実施いたしました。約80名の方に参加していただきました。ギャラクシティは休館日でしたが、消防設備事業者の協力のもと、火災警報装置の発報と防火戸、防火シャッターの開閉、等も実施しております。

成果として足立消防署より「皆さんがとても真剣な姿勢で取り組んでいた。各所で地震発生直後のお客様への声掛けや、各遊具の場所で自信を知らせるプラカードが用意されていたことなど、きちんと実際の災害発生を想定した動きが取れており良かった。あれだけ動くことが出来れば助かる方も増えると思う。訓練の一連の流れも本格的なものになっており良かった。」というお声をいただいております。また、都住民の方より「はしご車での実勢の救助の流れを見ることが出来て安心した。」とのお声をいただき、東京都住宅供給公社の方より「コロナ禍前ぶりに本格的な訓練開催ができて良かった。より多くの住民の方に参加いただけるよう土日開催も出来ればよい。」とのお話がありました。ギャラクシティ従事者からは、「手順を考えながら行動してしまい、本番はそれではダメ

だと思った。」「トランシーバーが混雑し、放送も反響して聞き取りづらかった。」との反省もある一方で、「訓練経験が積み重なったことで動きのイメージがつきやすくなった。」「避難経路、階段に人が殺到した場合の対応も必要になると思う。」など、訓練を強化したからこそ、課題が見え、有事の際の懸念点の解消を考えるきっかけになりました。今年9月にも一般のお客様を交えて無事避難訓練を終了しております。管理業務の加点提案については以上となります。

<渡辺委員長>

ありがとうございます。ここまでの内容で質疑応答をお願いします。

<工藤委員>

はい。危機管理の加点項目について、実施時期が2024年3月～となっておりますが、これは2023年3月～からでしょうか。

<松尾副館長>

はい、そうです。失礼しました。

<山縣委員>

アウトリーチの参加者について、コロナ前と比べるとどうなっておりますか。

<村田館長>

2022年度は、こちらから出向く態勢にはなっていましたが、まだまだ受入れ側の態勢が整っていないことが多くて1,549人にとどまっていたのですが、コロナがあけてからは、商業施設や学校など受入れ体制が整ってきており、4,451人まで伸びたというところもあります。

<山縣委員>

コロナ以前はどうでしたか？

<村田館長>

コロナ以前は、アウトリーチに関しては多かったです。

<山縣委員>

では、この数字が伸びた理由は、コロナがあけた影響ですかね。

<村田館長>

そうですね。

<渡辺委員長>

他にはどうでしょうか。

それでは私から、加点提案書の5ページ目、人材育成の加点について、聴覚障がいの方と視覚障がいの方への対応の研修を行ったということで、その他の障がいについては何かお考えはありますか。

<松尾副館長>

インクルーシブ研修の中で、精神障がいの方が苦手とする環境であったり、例えば大きな音が苦手であったり、障がい者という正式な認定は受けなくても弱視であったり、いわゆるグレーゾーンといわれるような方々などの対応についても、こちらの研修の中でお話があり、その際に同時に学ぶ機会になりました。

<渡辺委員長>

はい、ありがとうございます。他に何かございますか。

<酒井委員>

はい。障がい者の受け入れについてお話ができましたが、マルチ体験ドームについては障がい者席は2席のみなのでしょうか。2名以上が来た場合にどのように対応されているのか、お聞かせください。

<松尾副館長>

はい。車いす席は2席ございまして、また車いすから座席に移乗してご覧になっていただく場合も多くございます。ただ、車いすでそのまま入れる席は、設備上どうしても2席しかない状況ではございますが、臨機応変にプラネタリウム内へ入っていただき、ご覧いただける対応はとれないか適宜考えて対応しております。

<酒井委員>

今まで、入場できなかったということはありますか。

<松尾副館長>

そのような場合は、団体様よりあらかじめお問い合わせいただく場合が多く、車いす席のご案内は事前にできているかと思えます。私どもとしても、設備上受け入れられる範囲と団体様のご事情とすり合わせをして、可能な範囲で受け入れをしている実情でございます。

<酒井委員>

はい、ありがとうございます。もう1点、施設の利用状況について、音楽室、レクリエーションホール、多目的室、とんがりキッチン利用率が1年通してかなり低めかなと思うのですが、そのあたりどのような集客を考えられていたのかお聞かせください。

<村田館長>

とんがりキッチンは確かに、利用率が低いと言われ続けており、色々と努力しております。まず、我々主催でとんがりキッチンで親子料理教室を実施しており、こちらはとても人気です。コロナ禍になり、料理以外の会議等でも利用できると、あだち広報にも掲載し、宣伝をして少しずつは解消されているかと思えます。レクホールと音楽室に関しては、我々としては、ほぼ埋まっていて予約がとれな

い感覚で、利用率が低いと思ったことはありません。

<酒井委員>

はい、分かりました。

<村田館長>

すみません、先ほどのマルチ体験ドームの障がい者の方の受け入れについてですが、東京未来大学の教授にご協力いただきまして、貸し切りで障がい者の方だけを受け入れてリミック講座をやりました。介添えは、学生さんにやっていただき、2回目の公演に関しては、一般の方と同じように入っていたくというのをコロナ前はずっとやっておりました。

<四宮委員>

はい。お仕事体験について、私の会社もここに参加しておりまして、この時もすぐ満員になってしまい、枠が取れないような状況で、裏を返すといつもここを利用している方が予約をどんどんすると、その周りのこれから発掘しないといけない方たちが、なかなか来たくても来られない状況も生まれているのかなと思います。ですから、もっともっと今までの固定した方たちではない、その周りの方たちを開発していくようなことをどんどんしていただきたいなと思います。予約を取れないことはいいことだけど、取れなかった方たちはどうするのか考えていただけたらと思います。

<村田館長>

そちらに関しては、事前に埋まってしまうことが多いので、当日受付の枠を必ず設けております。例えば、体験を受けていただいて仮想通貨をお渡しして、文房具を購入できたり、ギャラクシティ銀行など通貨を使える場所がありまして、その対応する係として、子どもを当日募集しております。あとは、先日9月21日に「こらぼシティ」という大きなイベントがありまして、ハローワークという当日の仕

事をかき集めて、それを受けていただくもので、それもけっこう人気があったので、そういうのも含めて当日枠を増やしていきたいのと、長期休暇の土日だけではなく、通常の土日も増やしていけたらと思います。

<四宮委員>

枠を増やしていけば、来館者数130万人が150万人になると思いますので。

<渡辺委員長>

他にはありますか。

<伊志嶺委員>

はい。共生社会への意識と理解のところで、鑑賞サポート研修について、西新井文化ホールで障がいのある方がどれくらい入場されているのか、また障がい者のためのコンサートあるいは障がい者も健常者も楽しめるコンサートなど今後そういったプランはありますか。

<村田館長>

昨年度はできませんでしたが、今年度の2月8日にジャパンフェスタという大きなお祭りがありまして、その時に、西新井文化ホールで女優の浅野温子さんが読み語りをします。そこで、鑑賞ガイドサポート付き公演を初めてやらさせていただきます。東京都のーツカウシル事業の申請がおりましたので、助成金を利用して、視聴覚が不自由な方向けの鑑賞サポートガイド、例えばポータブル字幕器やヒアリングループ、手話通訳、盲導犬を入れた席を改めて前方に入れての実施が決定しました。これまでは、障がいのある方は、車いすの方は時々いらっしゃいますけどもそんなに多くは来られてないです。

<伊志嶺委員>

車いす席は座席が外せるのですか？

<村田館長>

座席が外せません。今回は、その方だけの専用席にしようかなと考えています。

<伊志嶺委員>

はい、ありがとうございます。

<渡辺委員長>

他に無いようでしたら、先に進みたいと思います。

<村田館長>

続きまして、こども未来創造館の1~4のところで、広報、遊び、創作、運動、子育てサロンまでの説明を加点提案書中心にしていきます。14ページご覧ください。利用促進ということで、「ウォ！顔」キャンペーンによる運営理念「わくわくウォ！」のPRです。目的はギャラクシティの運営理念「わくわくウォ！」を広く知っていただき、また区民との絆づくり、公式 SNS の活性化です。達成目標は、ギャラクシティの運営理念「わくわくウォ！」を感じられるキャンペーンの実施。また、キャンペーンである「ウォ！顔」応募数目標15投稿としております。2023年~2024年で30投稿を目標としております。わくわく心が躍って、ウォ！と驚く体験をすべての子どもたちに全身で味わって欲しい、好奇心や冒険心を持って、夢のある未来を生き抜いて欲しい。そのような願いや環境をお届けし続けていけるように、社会状況の変化に対応しながら、子どもたちとともに進化していくギャラクシティを掲げています。この運営理念を具体化する一つとして、子どもたちの最高の表情を「ウォ！顔」として募集するキャンペーンを実施しました。ギャラクシティの情報誌、SNS等で「ウォ！顔」の募集告知を行い、ギャラクシティに来館せずともこの運営理念を広め、SNSも子どもたちの笑顔で溢れる取り組みを行いました。ギャラクシティの情報誌「ウォ！」の表紙になるチャンスというのが、募集のキャッチコピーで、応

募方法をターゲットの母親の利用が高い Instagram 経由として、ギャラクシティの公式 SNS の活性化にもつなげました。成果としては、2023 年度は応募総数 16 作品の応募がございました。応募者からはギャラクシティへの思いが伝わる投稿が感じられ、お客様との絆を職員も感じる事ができ、従事するモチベーションが上がっています。応募者からのコメントも載せております。ギャラクシティの Instagram を見ていただくきっかけともなり、フォロワーが 2022 年度より 596 人増えております。2024 年度も応募を継続しており、情報誌の表紙として「ウォ！顔」を使用しております。その表紙を見て、投稿も増えております。今後も運営理念「わくわくウォ！」を具体化し、PR する取組みを行い、子どもたちの笑顔を増やし続けていきたいと思えます。続きまして、16～17 ページ。タイトル、足立区の仕事を体験できる過去最大規模の「こどもおしごとらんど」開催ということで、足立区のすばらしい仕事と大人を子ども達に知ってもらい、地元を誇りと安心感を持ってもらう目的です。3 日間で 90 名満員を目標に 8 月 23 日～25 日で実施しました。「こどもおしごとらんど」は楽しかった、だけではなく、リアルな職業体験から、将来の道筋を思い描き、子供たちが自立し生き抜く力を育むことを目指す地域連携プログラムであり、お仕事を体験した子どもたちがオリジナル通貨をもらい、そのお金を使って買い物をしたり銀行に預けたりと実際のお金の流れを体験することが出来ます。ギャラクシティを受託した初年度より開催していますが、コロナ禍での分散開催等を経て、2023 年度に大規模イベントとして再び開催しました。1 日 90 人の小学 3～6 年生を募集し、1 日を通してイベントを開催しました。午前中は、お金の使い方や大切さを学ぶ体験とお話を聞き、午後は実際に 10 職種の中から 2 種のお仕事を体験しました。その後、もらったお給料で買い物をしたり、貯金をしたりお金の流れを体験しました。2023 年度は、設立 50 周年記念の東京商工会議所足立支部と連携し、過

去最大規模の 3 日間で開催しました。成果としては、3 日間ともに 90 人の定員が 1 日で埋まり、当日受付を含めると 3 日間で定員 315 人が埋まりました。参加者アンケートでは、自分から進んで、人の役に立つことをしてみたい等の子どもからの声をいただいています。子ども、企業、双方がやりがいを感じ、相互で良い影響を与える地域連携事業となりました。また、実店舗でのこどもおしごとらんどを予定し、よりリアルな体験を子ども達に提供し、地域を知っていただく機会をつくっていきます。続いて、運動体験事業。「がんばるウォールを発表・交流の場へ」についてです。子どもたちの成果を発表できる機会をつくり、成長が見える場とし、また、がんばるウォールを通じて交流の機会とすることを目的としています。夏休み期間中にがんばるウォールの大会を初めて開催しました。「大ひょうげん 2023 クライミング」に参加し、練習した子どもたちが出場しました。また、大会に出場していない子どもも、大会後に講師による指導とともに特別コースにチャレンジできるイベントも実施しました。大会特別コースは 2023 年 7 月 29 日の大会の日から 2024 年 1 月 8 日まで設置し、どなたでも挑戦できるようにし、飽きのこないコースの提供をしております。また、東京オリンピックが開催された 2021 年度より継続している、ギャラクシティが定めたタイム内でゴールを目指す「がんばるウォールスポーツクライミングタイムチャレンジ」は毎年夏休み期間に実施していましたが、人気があるため今年度は春休み期間にも開催しました。また、2022 年度より平日金曜の夜間は、がんばるウォールを大人限定で自由に登れる時間を開催していますが、徐々に口コミや SNS での発信で参加者が増えており、参加者同士での交流もはかられております。成果としては、クライミング事業は、2021 年度が 54 回、2022 年度が 105 回、2023 年度が 128 回実施と年々回数を増やしております。「大ひょうげん 2023 クライミング」の大会は、参加者は満員の 8 名となり、大会を盛り上げる司会者や講師の

解説があり、観客は 115 名と多くの方に子供たちの挑戦を応援していただきました。また、平日金曜夜間の大人の方の利用はリピーターが定着し、中高生の新規の利用も増え、多世代交流にもつながりました。参加者も 2022 年度 52 名から、2023 年度 247 名と増加しております。続きまして、子育てサロン事業「父親を含めた家族イベントの充実」についてです。目的は、父親のイベント参加や日常的な利用が増えてきている中で、より利用したいと思える場所を目指し、父親を含めた家族イベントを開催し、子育てサロンの男性利用者数 1 万人を目指します。取り組みは、子育てサロンでの男性(父親)の利用者が徐々に多くなる中で、2023 年度はより男性が利用しやすい環境を整えようと土日開催の父親を含むご家族で参加できるイベントを増やしました。また、「パパ」がタイトルにつくイベントを開催したり、運動遊び等、体を思いっきり動かせる場や力を使うイベントを開催することで、父親が活躍しやすい場を提供しました。成果としては、父親が参加しやすいように土日イベントを 2022 年度 160 回開催に対し、2023 年度は 178 回開催し、また、「パパと遊ぼう」は 2023 年度から始め、7 回実施し 162 名の方にご参加いただき、平日参加できない親子にとって一層絆が深まる場所となりました。その成果もあり、イベント参加者数は 2022 年度 16,150 人から 2023 年度 21,037 人と前年度比 130% 増となり、子育てサロン西新井の定着にもつながっております。また、子育てサロン男性利用者数は、コロナ前を超え、10,845 人と過去最高となっており、イベント参加をきっかけに、父親とお子様が二人で来館する等満足する子どもの姿と楽しんで子育てに参加している父親の姿がうかがえました。また、イベント担当者は、区内園長経験者及び保育園経験者に加え、発達支援に関わる業務経験者が気軽にコミュニケーションを図りながらイベントを開催しているため、利用者からの相談件数も昨年度比 200% を上回る件数となっております。説明は以上となります。

< 渡辺委員長 >

はい、ありがとうございます。
ここまでで質疑応答お願いいたします。

< 工藤委員 >

大人の利用促進について、がんばるウォール以外でありますか。

< 村田館長 >

プラネタリウムで毎週金曜日に大人のための時間を設けておまして、昨年度よりだいぶ浸透し始めておまして、多くのお客様に来ていただけるようになっております。

< 浅賀副館長 >

また、ものづくりガレージを活用して、御朱印帳づくりやジオラマづくり等ものづくりの事業も大人向けに開催しております。

< 渡辺委員長 >

はい、ありがとうございます。ここまでで本日のヒアリングは終了いたします。指定管理者の方は退出お願いいたします。

【意見交換】

【1 日目終了】